

《ご挨拶》

新型コロナ特集（その1。2020年） 企画のご挨拶

COVID-19 (No.1. 2020) Foreword

紀要編集・論文審査委員会

Bulletin editorial and dissertation review committee

「人類の歴史は、感染症との闘いの歴史でもある」と言われています。私達は、これまで勝利して来ました。あるいは、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」（以下「新型コロナ」と略す）のパンデミック（世界的大流行）に日本も巻き込まれ、「百年に一度の危機」（安倍晋三 前首相）のなかでは、新型コロナとの「平和的共存」（山中伸弥 京大教授）なののでしょうか。一方で、「ピンチはチャンスだ」（永守重信 日本電産会長）という見方もあります。

新型コロナ感染症対策により、波を超え、幾つかのその収束を経て、終息に向かうとき、新しい社会、経済や組織などのあり方が見えて来るかも知れません。

14世紀に流行したペストは、たとえば欧州でも甚大な被害をもたらしましたが、欧州は、その後にルネサンスを迎えました。

いずれにしても、同時代を「防災拠点大学」として生きる国士館大学、その附置研究所である防災・救急救助総合研究所は、時代の伴走者（本誌創刊の辞）の、その使命の1つとして、そのような時代の記録の1つを、『国士館 防災・救急救助総合研究』（以下「紀要」と略す）に「新型コロナ特集」を組むことにより残したい、その使命をいささかなりとも果たしたい、と切に願う次第です。

紀要第6号（2020年）では「新型コロナ特集（その1。2020年）」を、第7号（2021年）では「同（その2。2021年）」を組みます。

国士館大学の内外を問わず、ご応募ください。また、当委員会より、寄稿のお願いを致しますときには、どうかお受けください。

紀要編集・論文審査委員会